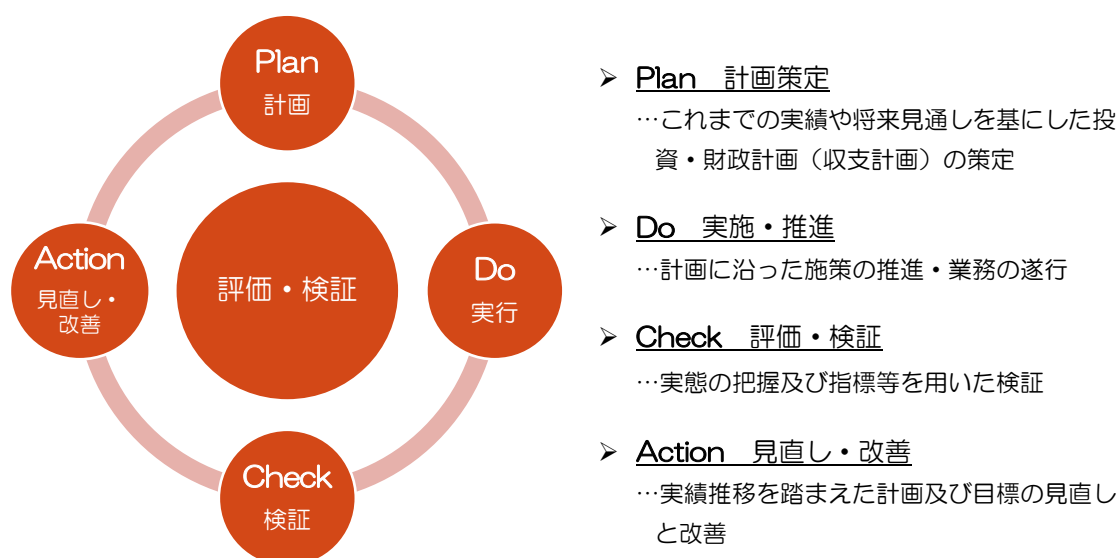


第5章 経営戦略の事後検証・改定等に関する事項

本経営戦略の進捗は、毎年度、決算及び投資・財政計画（収支計画）の実績値に基づいて事後的に評価・検証を行いながら管理（モニタリング）します。また、社会環境等の変化により、本経営戦略策定時の状況と実態との間に大きな乖離が生じることも想定されます。そのため、本経営戦略の記載内容及び投資・財政計画（収支計画）については、5年ごとの定期的な見直し（ローリング）を行うこととし、環境変化等を踏まえた目標の再設定や戦略の修正・再策定の検討など、必要な改善を行います。

なお、これらの評価、検証、見直しにあたっては、本市が接続する多摩地域流域下水道の状況も十分に勘案しながら、PDCAサイクルを用いて継続的改善を図ることとします。

（図用 5-1）PDCA サイクルのイメージ



➤ モニタリング：毎年度の評価

- 毎年度、決算及び投資・財政計画（収支計画）の実績値を把握し、計画値との乖離度合いを確認します。
- 毎年度、計画値と実績値に著しい乖離がある場合は、その原因を分析し、対策を検討します。
- 毎年度、経営比較分析表を活用して各指標を確認し、本市下水道事業の現状を正しく把握して将来の政策形成の参考とします。

➤ **ローリング：5年ごとの見直し**

- 5年ごとに、投資・財政計画（収支計画）における実績値の推移を把握し、目標の適正性を検証します。
- 5年ごとに、将来見通しの再評価と各種施策との整合性評価を行います。
- 5年ごとに、投資の実施状況を検証します。
- 5年ごとに、課題の洗い出しを行い、施策の方向性を確認します。